

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4470300460
法人名	医療法人 英然会
事業所名	医療法人 英然会グループホーム・み里
訪問調査日	平成20年8月25日
評価確定日	平成20年10月23日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4470300460
法人名	医療法人 英然会
事業所名	グループホーム・み里
所在地	中津市中央町1丁目8番36号 (電話) 0979-25-1310

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年8月25日	評価確定日	平成20年10月23日

## 【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	13 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 14 人

### (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての	1階	2階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	19,200 円	
敷金	有( ) 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,300 円			

### (4)利用者の概要(平成20年8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.6 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人英然会里見医院 杉原消化器内科クリニック 中央歯科 内尾整形外科
---------	--------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1	運営者が利用者本位のケアを基本に考えており、職員も利用者が家庭的で安心した暮らしができるよう支援している。
2	医療法人が母体であることから、医療体制がとれているので家族は安心している。
3	住宅や商店が混在した市街地で、建物の裏は水田が広がるのどかで、建物内は木のぬくもりを感じる落ち着いた環境である。
4	地域活動へ積極的に参加して、グループホームから地域へ呼びかけ介護教室を開き、利用者や職員がご近所を訪問するなど馴染みの関係づくりをし、協力体制への働きかけをしている。
5	介護計画を利用者の望む暮らし方を基本に作成し、毎日評価をし確実にケアに活かすよう取り組んでいる。
6	職員間の信頼関係が強く、ケアに対しての研修が積極的で、法人全体で計画的な研修が実施されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価において提示された改善項目について、職員間で話し合い取り組んでいる。取り組みの目標や過程についての記録は明記しておらず、今後取り組む予定である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義や内容について、ミーティングの場で管理者は職員に説明し、意見を聞きながらまとめている。今後、評価内容を一つ一つ認識し、ケアに活かすよう努力が期待される。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催して、地域から自治委員、老人会、民生委員児童委員が参加し、家族、市役所職員等が出席して積極的な意見やアドバイスが出されている。地域としては認知症についての支援など頼りにしており、グループホームとしては地域に協力や援助のお願いをしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連事項:がいび7, 8)</p> <p>意見箱を設置して意見を聞き取ろうとしているが、意見が出にくいことからアンケートを実施し、苦情処理委員会を作り、意見を反映できるよう仕組みを作っている。家族会を開催して、意見を出し合い、運営推進委員会に家族が出席して外部者へ意見を出せるようになってきている。また、職員は家族との面会時の伝言や、家族に言われたことを一ロメモとして確実に伝わるよう個人別ノートを作っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会や老人会、地域の役員やご近所の方々と花見を行い、交流を通してグループホームの状況や入居者を知ってもらうよう企画している。地域の行事にも積極的に参加し、日常的に散歩に出かけ、ご近所と馴染みの関係ができていく。職員と利用者のご近所を訪問して困った時の支援をお願いしている。また、地域の方に参加を呼びかけ介護教室を開き、グループホームの理解への働きかけをしている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(◎印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解して理念を作成し、地域の中で家庭的で安心して暮らせるよう職員間で具体的に考えている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のミーティングや勉強会などで話し合い、理念の実践に向け地域活動への参加など具体的な取り組みをしている。また、ケアも理念を活かすものとなっている。懇切丁寧なサービスの説明により、介護計画に沿った支援をして職員間で理念の共有もできている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会、地域の役員やご近所の方と花見で交流を行っている。また、地域のお接待やどんと焼き、保育園の行事などに積極的に参加している。中学校や高校の体験学習も受け入れている。地域の方や家族を招いて認知症の学習会や、ホーム便りを地域に配布するなど職員も地域に向けた取り組みをしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を管理者は職員に説明し、話し合いながら評価を行っているが、職員は具体的内容の把握をしていない。また、前年度の評価を基に会議で話し合い改善に向けての取組み、質の確保や向上を実践に向けて行っているが、話し合いの内容や目標、取組み方法が記録されていない。	○	評価結果改善については取り組みの過程を分かりやすく明記すると共に、自己評価を行う際、職員一人ひとりが内容を把握してケアのポイントの理解や気づきの機会となるよう期待する。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに定期的に開催している。自治会長、民生委員児童委員、老人会会長、家族代表、市職員など地域の参加が多く、状況報告や理念、方針の説明、利用者の状況やケアについてなどを話し合い、テーマ別学習など行っている。地域の方より積極的な質問、認知症の介護や対応について教えて欲しいなどの意見が出されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者や地域包括支援センター、社会福祉協議会など福祉関係者でスポーツなどを通して交流を行い、馴染みの関係がつくられ、利用者の対応や不明な点の相談や事業所の運営などサービスの向上に向けたアドバイスを受けている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	殆どの家族が定期的に面会に来ており、面会時に状況やできごと、日常生活の様子などを報告し、話し合いのポイントや、伝えるべきことを一口メモとして書きこみ、家族と共通認識を心がけている。金銭管理については定期的に家族が確認をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしているが意見が出にくいことからアンケートを実施し、意見を出しやすいようにしている。苦情処理委員会や接遇委員会で話し合いを行い、家族の意見を反映させる仕組みができています。家族会を開き、内容を運営推進会議で報告して外部者へ家族の思いが表せるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットごとに職員を固定化して、利用者が馴染みの職員と落ち着いて過ごせるよう配慮している。やむを得ず異動や新採用がある場合は利用者、家族へ紹介して、不安や心配をなくすよう支援している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に職員研修が実施されており、新規採用者や経験の長い人に対しても考慮した内容を取り入れている。毎月1回の全体研修や外部研修に参加して、積極的に学ぶ機会を取り入れている。各委員会も設置し、それぞれの委員会での内容を職員全員へ伝達している。新規職員に対しては、幹部職員が働きながら実技指導を行い、職員間の信頼が見られる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者間の研修を行って運営について相談等しているが、職員間の交流研修会は開かれていない。市に対して、市内のグループホーム間の交流を提言中である。	○	市内外のグループホームと積極的な交流を通して、ケアの方法や質の向上に向けた取り組みが望まれる。今後は地域において同業者間のネットワークづくりや勉強会、地域に向けた啓発など期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が見学をしたうえで、信頼関係を築きながら通いながら介護などを行い、グループホームの雰囲気馴染むよう徐々に進めている。入居に際しては担当者会議で本人や家族が意見を出し合い、担当ケアマネジャーは生活の状況(環境)など把握して、安心して入居できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	祭や地域活動など共に楽しむような取り組みをしている。昔の慣わしや料理など利用者から教えてもらいながら、支えあって生活をしている。一人ひとりの気持ちを大切にして喜怒哀楽を分かち合っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族と話し合い、思いや意向を具体的に聞き取り、日々の生活の中で気付いたことや声掛けから得た情報も把握し、本人の要望を得るよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族と日頃より話し合っ、本人がどのように過ごしたいかを基本に、生活の質を上げるよう機能の維持は勿論のこと、趣味やその人らしく生きることを具体的に取り上げ、楽しく暮らせるよう計画を作成している。毎週1回全職員が集まり、カンファレンスを行い意見を出し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6ヶ月ごとに見直しを行っている。毎日、計画別具体目標の評価を行い、ミーティングを開き利用者の変化や状態に応じて、家族、本人と話し合い随時計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて通院の付き添いや、地域の祭り、昔ながらのふるさとの行事などに夜間や休日でも同行している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により歯科、皮膚科、整形外科、内科など受診している。また状態によりかかりつけ医が往診できるようグループホームと医療機関が話し合い支援体制ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族、医師、介護者と話し合い方針を立てている。方針を基に職員間でも話し合い、ターミナルケアについての研修に取り組んでいる。状況により医療機関へすぐにつながるようなシステムがある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇委員会を立ち上げて年1回セミナーを開き、言葉かけや対応時におけるプライドやプライバシーの配慮について学習している。毎月のミーティングにおいても、日頃のかかわり方の点検をして職員間で統一した意識を持っている。個人情報についてもマニュアルを基に保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールはあるが体調や、その日の思いにより行事やレクリエーション参加は自由である。食事の時間や休憩も一人ひとりを尊重している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルで仲良く家族のようにお話をしながら食事を楽しんでいる。職員が同じ物を食べていることで固さや味についての気付きがあり、食べやすい方法などの参考になっている。食事の準備や片付けも、できる人が出来ることをしている。週2回自分たちでメニューを決めて好きなものを作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回を基本に入浴している。自立状況にあわせて部分浴や見守りなど行い、時間にゆとりを持たせ楽しみながらの入浴としている。発汗時や失禁時には清拭やシャワーなどによる清潔の保持を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのできることを把握して力が発揮できるよう支援している。お盆拭きや布巾干し、タオル干し、タオルたたみ、新聞読みや読書、大正琴の演奏、花や野菜の水やりなど生活の幅を広げている。生活歴や趣味を活かし生活を楽しむよう支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に出ることの大切さを認識しており、利用者が外に出るよう働きかけている。庭先の散歩や、草花への水やりで外に出るよう動機付けしたり、郵便物をポストまで出しに行くなど目的意識を作り出している。自立歩行が困難な場合は車椅子やシルバーカーを利用して外出し、外気に触れるよう配慮している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望で外へ出ようとする利用者に対して、時間帯や状況、原因など把握して、場面に応じた支援をしている。日頃から玄関に鍵をかけず見守りや声掛けを重視し、階段部分の危険回避のためモニター監視を行っている。盗られ妄想のある方は、部屋から出るに時鍵をかけると安心することから、本人の目の前で自室に鍵をかけて安心できるように柔軟な対応をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で地域へ協力を求めると共に、ご近所を利用者と共に訪問して緊急時や日頃の声掛け、援助の依頼を実施している。年2回、法人と消防署合同の避難訓練、グループホーム独自で月1回の訓練を行っている。災害時の非常食や水など備蓄して定期的に点検している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により栄養バランスや摂取量を考えた献立をたて、状態に合わせて、より食べやすい配慮や喉越しのよい食事の工夫をしている。職員は食事前に誤嚥防止のための嚥下機能を高める体操をして、自分の口で食べることの維持を重視している。水分摂取量も身体状況による支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に昔馴染みの調度品や季節の花を飾り五感に働き掛けている。空間が広く温かみのある落ち着いた色合いで、自由に動き回りカラオケやレクリエーションなど楽しみながら機能維持を行っている。動きが困難な場合でもベッドのまま居間で皆と共に過ごすことも可能である。トイレの手摺が見やすい色で利用者にわかりやすく自立への働きかけをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの生活感のある、家族の思いがこもった居室づくりがされて、馴染みのあるテーブルや椅子、仏壇、テレビ、ソファーが持ち込まれ、家庭的な雰囲気の中の居場所となっている。お花の好きな方にはきれいな花を飾り個性もあふれている。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 英然会グループホーム・み里 (華)
(ユニット名)	イ)エイゼンカイ グループホーム・ミサト (ハナ)
所在地 (県・市町村名)	大分県中津市中央町1丁目8番36号
記入者名 (管理者)	(華) 武信 末美
記入日	平成 20 年 8 月 1日

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 英然会グループホーム・み里 (夢)
(ユニット名)	イ)エイゼンカイ グループホーム・ミサト (ユメ)
所在地 (県・市町村名)	大分県中津市中央町1丁目8番36号
記入者名 (管理者)	(夢) 中尾 美佐子
記入日	平成 20 年 8 月 1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームみりの理念を作成している。 地域のイベントに参加する事により、地域の住民との交流を通し関係強化を図っている。(地域のイベント参加・ボランティアの受け入れ)		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が理念を実際の介護で実現できるよう、ミーティングやカンファレンスで話し合い、又、ミーティング時、ミニ研修会を行い具体的なケアについて意見の統一を図っている。 ターミナルケアに向けての勉強会(吸引、全身状態の観察)を取り組みケアへのレベルアップを行い統一を図って行きたい。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時家族に説明している。 地域の方やホーム見学の際わかりやすく説明している。 ホーム便りも活用している。 ホーム便り、年4回発行しており今後も続けて行きたい。 家族、市役所、公民館、郵便局、医療機関、町内会役員に配布している。		
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	年間行事、散歩時に近隣の人と挨拶を交わしたり話をしたりしている。つくし取りの場所の提供があり毎年出かけている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年1回地域の自治会、老人会、地域の役員の方と一緒に花見をする。どんど焼き、お接待、保育園などの地域の行事に積極的に参加している。 地域の方、家族を招待し介護教室(認知症学習)を行う。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている。地域中学生の実習、外部評価調査員の実習を積極的に受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を行う意義は常にミーティングで話している。評価を活かし改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今回第8回目の運営推進委員会を行ったが会を重ねる都度良い意見を頂き、すぐサービス向上に活かしている。現在取り組んでいる内容についても報告し意見をもらうようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当の方と顔なじみになり不明な点を尋ね、質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入所者の親族が成年後見人になっている方もいるため支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間での虐待防止について注意している。その都度、学習会を持ち職員同士で話合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、利用者、家族に不安、疑問点尋ね十分な説明を行い、利用料金、重度化や看取りなど医療体制についても詳しく説明し同意を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置していることを説明しているが今まで利用者や家族から1度しか意見が入っていない為利用者がゆっくりした時間に尋ねている(月1回程度)。 英然会、苦情接遇委員会より、6月にアンケートを取り利用者、家族に意見を聞く、アンケート内容は家族会で説明する。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者に面会があったり身体的異常があった場合は直ぐに家族に報告している。必要時、受診に同伴して頂いている金銭管理については定期的に確認をしていただき確認印、又、確認サインをいただいている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置し、意見、苦情があった場合苦情接遇委員会で検討し結果報告をしている。 (家族会での結果報告、改善点の実施)</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のミーティング時意見を聞くようにしている。日ごろからコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけ、聞き出したりするようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>起床時、就寝時、入浴、外出時利用者の状態に合わせたローテーションを組んでいる、その都度必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニットの職員を固定化し顔馴染みの職員によるケアを心がけている。 新しい職員が入る場合、利用者にも必ず紹介している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加し研修したことを月1回のミーティングで共有している。 4月：新卒職員、英然会内研究を行う。 5月：感染に対する学習講習会(保健所) 6月：各委員会(リスク、苦情、接遇)の合同学習会開催 新入職員は、認知症介護教室に受講している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村内のグループホーム間の交流を市町村に提案している。(5箇所) 一部のグループホームとの、職員との交流をしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2回懇親会を行い交流をしている。 英然会のミニバレー部に数名参加し気分転換をしている。 休憩時職員同士の人間関係を把握したりするよう心がけている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が向上心を持って働けるよう職能評価を行っている。 労働基準法に沿って職員の労働条件を整え、就業規則があり守られている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族、本人が入居に対し不安のある方は体験入所(5日～7日)していただき、信頼関係を作り契約している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケアマネージャーと管理者で今までの家族の苦労やこれまでの経緯についてゆっくり聞いている。家族の状況を把握することによって信頼関係を築くよう心がけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後、家族が通所介護を利用された利用者もいた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ把握に努めている。介護計画立案時、再度本人、家族の希望、意向を確認している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時家族に生活歴、ライフスタイル、個性や価値観、小さな事柄でも情報を伝えてもらい本人の全体像を知る努力をしている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人の介護計画評価表(毎月)を各勤務ごとチェックし、現状を総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日ごろの関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。 アセスメントを含めミーティングやカンファレンス(1回/週 日曜日)にて職員全員で意見交換を行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実地期間終了時の評価、通常6ヶ月で見直しを行い、利用者の変化や状態、状況を考慮して、家族、本人の要望に応じ見直しをしている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、介護計画評価表、申し送りで個々の変化を捉え記録している。 個別記録を基に介護計画の見直し、入所時3ヶ月、6ヶ月に1回評価を実施している		
ひょう				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じ、通院など必要な支援を柔軟に対応している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	認知症入所施設の存在を公共機関をはじめ近隣の方にも知って頂き協力を得ている。どんど焼、鶴市祭り、おせったい、祇園、すずめの家など地域との交流はできている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同一敷地内の医療機関の職員と週1回担当者会議で情報交換し、近隣の介護老人福祉施設に関しては担当者への電話連絡など協力体制を確保している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に市の職員が参加するようになり、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。 地域包括支援センターと協働しているが、地域包括支援センター研修会に職員が参加して意見交換をしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望にて歯科、皮膚科、整形外科、内科受診に家族の付き添いができないときは職員が付き添う。 必要時往診依頼する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	ターミナルケアにむけての学習会を持つ。終末期当施設で必要と思われることの学習会の計画を考えている。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>対</b> 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	英然会の接遇委員会で年1回接遇セミナーを行っている。言葉かけ、対応について学習すると共に月1回ミーティングにて日々の関わり方について点検して統一できている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行事は各自の希望を聞き行っている。調理、食事、おやつに関しても希望を取り入れている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に合わせ、見守りしながら寄り添うことを心がけている。 1日の流れは持っているが行事やレクリエーション参加にも自己決定を尊重している。	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(華・夢)各自希望の美容室に家族と共に行かされている、またこちらの法人の美容師を利用されている方もいる。 服は週1回の買い物時職員と一緒に購入する、また家族が持参する利用者もいる。 (夢)家族が店に連れて行きオーダーされている利用者もいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週(火、日)調理日、メニューは利用者と相談しながら決めている。調理のできる方には手伝っていただいている。 盛り付け、片付けなど利用者と一緒にいき利用者と同じテーブルで楽しく食事ができる雰囲気づくりを大切にしている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みのお菓子、飲み物は週1回買い物をして希望したものを食べている。 本人用として冷蔵庫に預かり、希望時、渡している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をかけてさしあげている。手紙をだされる方は職員と一緒にポストまで入れに出かけている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問していただけるよう雰囲気作りを心がけている。利用者、訪問者にお茶を出しゆっくり会話ができる居心地の良い空間作りを心がけている。訪問時間は決めておらず、仕事帰りやご家族の都合のよい時間、いつでも訪ねて来て頂けるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が意識を持ち英然会の委員会への参加後情報を得ている。 身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	盗られ妄想のある方は本人の希望で居室出入り時、本人の目の前で鍵をすることもある。 日中玄関には鍵をかけず必ずホールに見守りのスタッフがいるようにしている。 帰宅願望の利用者さんの離設時にそなえ、家族の許可を得て、写真を用意し個人ファイルを作っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	業務中、常に目配りをして所在の安全確認をし、夜間は数時間毎に利用者の様子の確認、起きられたときには直ぐに対応している。モニター監視も行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤、消毒剤などの保管は危険防止のため定位置に保管している。薬、洗剤、漂白剤、包丁の保管場所は入所者の目に触れない場所に保管し鍵をかけている。 ハサミ、爪切りは、必要に応じて預かっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やひやりハット報告書を書き残している。リスクマネジメント委員会にも報告している。事故が発生した場合週1回、または当日カンファレンスを行い対策を話し合い職員の共有認識を図り、家族への説明と報告を行っている。重大事故時、事故発生連絡票を介護保険課に報告する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一施設内の厨房より配食されており栄養士の献立により栄養バランスが取れている。補水は活動後、入浴後、間食時に行い個々で急須やポットも使用している。家族の持ち込みは自由に行っている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	英然会全体で月1回感染委員会が開催され、参加後ミーティングにて情報を職員に告げている。感染委員会による感染マニュアルに沿って行っている。家族に同意を頂き、職員共に全員インフルエンザ予防接種を受けている。食前、排泄後、石けんを使用し手洗いする。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理日(火、日)に調理器具、布巾を漂白し清潔に心がけている。冷蔵庫内の点検掃除は調理日に勤務の中に組み込んでいる	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	面会もオープンにしており玄関には四季の花を植え季節感を演出している。玄関先にベンチを置き、一息つけたり庭先でお話をしたりお茶を飲んだりしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔馴染みの調度品などを置き家庭的な雰囲気を出している	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、ホールに四季の花などで、装飾した居心地の良い空間を作っている。ホールにソファを置き数人または一人になれるようにしている。テレビを見たりしている妄想に左右され転倒の危険性のある利用者さんは、ホールのベットにて、見守りの中で短時間臥床して頂くスペースをつくっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら使い慣れた物、好みの物を持ち込まれ利用者の居心地のよさに配慮している。 テレビ、仏壇、テーブル、椅子、ソファを持ち込まれる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調は入居者の体調管理とあわせ、その都度調整し換気はサッシ、扉の開閉をこまめに行う。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせてベッドの高さや浴室に手すり、居住環境が適し、安全で自立した生活が送れるように配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗が生じた場合カンファレンスやミーティングにて話し合い、本人の不安を取り除くように職員全員で考え工夫している。 トイレは、便所、トイレと大きく書き、日の丸の絵を貼り分かりやすく工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先やベランダで植木、鉢植えの手入れ、水やりをしたり、中庭で洗濯干しや日光浴をしている		



V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①田園に囲まれた静かな環境の中で、その人らしい暮らしが安心してでき、共に今を生き生きと生活できる環境づくりを行なっている。
- ②家族や地域の方々との交流を通じて、自宅での生活との継続性を保てるよう、家族と地域の方々との信頼関係を築き、共に支援していける体制づくりに心掛けている。
- ③職員のスキルアップをめざし、研修会、ミニ学習会の積極的な参加に努めている。